

(別紙：様式案)

シンポジウム等の概要について(事後報告)

- 1 名称:公開シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」
- 2 日本学術会議の主催者:防災減災学術連携委員会、
土木工学・建築学委員会 低頻度巨大災害分科会
- 3 その他の主催団体等:
・主催:防災学術連携体
- 4 開催日時:令和2年3月18日(水) 12時30分～18時00分
- 5 開催場所:日本学術会議講堂(インターネットにて同時中継)

6 開催趣旨:

本シンポジウムでは、現在の社会の構築、構造物の設計や防災活動において、一般的に想定している自然外乱よりも、発生頻度は低いが、もし発生するとわれわれの社会に非常に大きな影響を及ぼし国難級の被害となる巨大自然災害を対象として議論した。これらの中には防ぐことが極めて困難な災害も含まれると予想されるが、学術分野として躊躇することなく、これらの発生の可能性を把握しつつ、取り組みの方向性を考えておく必要がある。

この低頻度巨大災害を引き起こす極端な自然事象の発生の可能性を、現在までに得られている科学的知見に基づき、理学系各分野の専門家より解説していただき、これらが社会に及ぼす影響について工学系、および人文・社会科学系の各分野の専門家より発表していただいた。これらをもとに、今後の学術分野における取り組みの方向性を議論した。

7 参加人数:

講演者・関係者:30名

報道関係:22名

インターネット中継(YouTube):視聴者:400名、アクセス回数(当日分)2400名

8 特記事項:

本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、インターネット中継での開催とした。発表会場には講演者・主催関係者、および報道関係者のみが参加した。

当日の講演に用いられた資料(スライド)は防災学術連携体のホームページに事前掲載して自由に閲覧できる形で残している。また当日の開催状況の動画も同サイトに掲載して、後日閲覧できるようにしている。

講演と熱心な討論の内容が多く視聴者に配信されると同時に、参加された多くの報道関係者に発信された。

インターネット中継にて開催した本シンポジウムの模様は、NHKの番組「ひるまえほっと」にて4月3日に放映される予定。

以上